

平成 28 年度

第 3 期はままつ女性カレッジ レポート集
～私をエンパワーメント～

浜松市市民部

ユニバーサル社会・男女共同参画推進課

実施概要

1 目的

男女共同参画施策を含め、行政の施策を企画立案し提言できる力を身につけ、男女共同参画の視点をもって、審議会、地域の役員などの政策・方針決定の場で活躍できる女性の育成や支援を行う。

2 対象者

概ね 20～40 代の女性

3 実施期間

平成 28 年 8 月 20 日～平成 29 年 2 月 18 日（土曜日）13:30～16:00

4 プログラム内容

（前半 3 回）男女共同参画に関する講義

（後半 7 回）男女共同参画の視点を持ち、地域の現状と課題を分析し、政策提言を行う。

5 受講者の属性

		受講者（修了レポート作成者）
年代	20 代	1 人
	30 代	3 人
	40 代	3 人
合 計		7 人

6 提案内容

(1) テーマ「浜松市における女性活躍の促進について」

- ◎ 市で実施している 2 事業の周知向上、参加者増加を目指す提案
 - ・就活前のプチサロン…学校への持ち込み企画として開催 など
 - ・はままつ女性カレッジ…開催前にオリエンテーション など

(2) テーマ「浜松を「素敵に女性が集まるまち」へ」

- ◎ 企業情報・求人情報の提供を充実し、若い女性の定住を目指す提案
 - ・「JOBはま」にコンテンツの追加、女性が使いやすいよう工夫
 - ・保護者世代に「JOBはま」の認知度アップ

(3) テーマ「地域における女性の活躍推進～女性消防団員を増やすには～」

- ◎ 消防団員になりたいと思う女性を増やすための提案
 - ・市民に広く広報…直虎ちゃんを活用、愛称・キャラクター募集 など
 - ・企業・店舗へ周知…サポーター企業・店舗の募集、団員への特典提供 など

浜松市における女性活躍の促進について

1. はじめに

女性活躍とは、社会において、一人一人の女性が個性と能力を十分に発揮できることである¹⁾。少子高齢社会の到来、国際化や情報化の進展、家族形態や価値観の多様化等、社会経済環境が大きく変化する 21 世紀社会において、男女共同参画社会の実現は急務である²⁾。そして、「女性はわが国最大の潜在能力」とされ、国・自治体・民間団体において様々な女性活躍推進事業の取組みがなされている。この背景には、就業率、管理職比率、賃金、議員比率、自治会長比率などの男女格差がある³⁾。その根底には根強い性別役割分業がある。よって、「男は仕事、女性は家庭」という固定観念を排し、性差に関わらず個人が望んだ形で活躍できる社会の実現が期待されている。

浜松市においては、ユニバーサル社会・男女共同参画推進課（以下、ユニ・男女課）の主導で、現在、以下の 3 領域 5 事業が展開されている。

(1) 企業で活躍

- ① はままつ働く女性活躍応援ネットワーク
- ② 先輩女性社員に聞く！就活前のプチサロン
- ③ 働き女子のナイトミーティング

(2) 地域で活躍 はままつ女性カレッジ

(3) 起業で活躍 女性起業家育成事業

ユニ・男女課によれば、これらの事業のうち、「はままつ女性カレッジ（以下、女性カレッジ）」と「就活前のプチサロン（以下、プチサロン）」では、参加者集めに苦慮している。男女共同参画・女性活躍社会の実現に向けて、女性一人一人が男女共同参画やワーク・ライフ・バランスを学び実生活や仕事につなげていくことは重要である。そこで、その主要な事業である女性カレッジとプチサロンの周知向上と参加者増加を目指し、政策提言に取り組むこととした。

2. はままつ女性カレッジについて

(1) 現状分析⁴⁾

- ① 事業目的 男女共同参画施策を含め、行政の施策を企画立案し提言できる力を身に付け、男女共同参画の視点をもって、審議会、地域の役員などの政策・方針決定の場で活躍できる女性の育成や支援を行う。
- ② 事業目標 与えられたテーマについて政策提言を行う。
- ③ 対象 おおむね 20～40 代の女性

- ④場所 市役所
 ⑤備考 各期の期間、参加者等を図1に示す。

受講費用は無料。託児あり。

1期修了生有志により「はままつガーベラ姫プロジェクト」活動中。

	第1期 (平成26年度)	第2期 (平成27年度)	第3期 (平成28年度)
期間	10～3月	6～12月	8～2月
回数	全12回 〔講義5 グループワーク7〕	全12回 〔講義5 グループワーク5〕	全10回 〔講義3 グループワーク5〕
参加者数 (修了者数) /定員数	14(12) /16人	11(11) /16人	7/16人

※各期最後2回は成果発表会リハーサル、成果発表会を実施。

図1 第1～3期女性カレッジの期間、講座回数、参加人数等について

- ⑥広報手段 広報はままつ、浜松市ホームページ、あいホール等関連施設への広報協力依頼、チラシの掲示（図書館等）など

(2) 問題および課題の抽出

- ①問題 初年度以降、参加者は減少しており、第3期では定員に対して参加者が半数に満たない（ただし、2、3期では中途辞退者はいない）
 ②課題 参加者を集めるための、広報・開催スタイル等の見直し、提案をすること。

(3) 課題に対する調査分析

第1～3期女性カレッジ受講生30名に対しアンケートを配布し、23名より回答が得られた。調査項目と結果は別紙に示す。

(4) 課題解決のための提案

本事業は、開催期間が約半年に及び、講義外の活動が課されるなど修了は決して容易ではない。それにも関わらず、参加者に占める修了生の割合、アンケートに回答いただいた修了生の受講満足度はともに9割を超えており、非常に高水準である。すなわち、ほとんどの参加者が修了しており、高い満足度が得られているのは注目すべき点だと考える。

女性カレッジは、市民に開かれた事業であるものの、浜松市における20代～40代の女性人口の14万人のうち16人という少数を定員としたものである。また、事業の目的である政策提言の方法を、市民が学ぶには、現状の「講義＋ワークショップ」は最低限必要なカリキュラムであり、複数回開催となることは避けられない。よって今回、女性

カレッジの受講生を集めるための解決策を挙げるにあたっては、現状の目的・カリキュラムを維持しながら、「半年に及ぶ講義、難しそうな講義だけれども、参加してみたい、学んでみたい」というニーズを僅かでも持つ（だろう）方々に、広報が行き届くこと・参加への一步を踏み出せるようなことに留意したい。

提案 1. 本開催前に、オリエンテーションを設ける

女性カレッジの本開催前に、担当課、修了生等が、女性カレッジの概要を説明する機会を設ける。「現在広報している情報のみではとっつきにくいイメージがある」「興味があっても開催期間の長さに躊躇するところがある」などの思いを持った人たちが、まずは気軽に参加でき、女性カレッジに参加することのイメージを具体的に持てることが目的である。

危惧される点としては、修了生に時間・労力を工面してもらう必要があること、場所代等、新たなコストが発生する可能性があることが挙げられる。

提案 2. 講座最終回に受講生らが今後の女性カレッジをどうしたらいいか話し合う

アンケートでは、受講生のうち半数以上が女性カレッジを他者へ勧めたいと考えており、そのうち実際に勧めた者が 8 割に上る(Q6)。一方で、広報や開催形式に対し、皆、様々な意見を持っていることがわかる (Q7)。また、女性カレッジへの参加目的に「ネットワークづくり」を挙げる者が最も多かったにも関わらず、修了生のうち「ネットワークづくりができた」と回答する者はいなかった (Q2,Q3)。そのほか、課題発表後の担当課・事業や他の修了生の状況を知りたいという要望もみられた (Q7)。

そこで、講座の最終回に受講生と有志の修了生を集め、今後の開催時期、場所、講義とワークのバランス等について意見を交わす機会を設けることを提案する。受講生・修了生の背景は様々であり、それぞれの立場からの意見を述べることができるだろう。得られた意見は参考として、担当課や講師に精査・選択してもらえばよい。

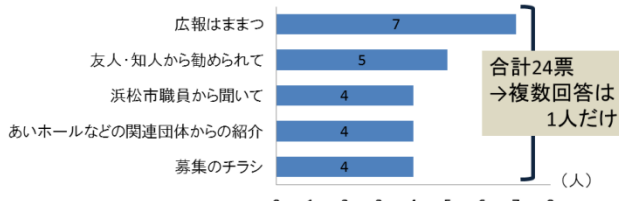
アンケートをみると、友人・知人の口コミで参加した人は約 2 割いる (Q2)。修了生の意見が加味された女性カレッジとなれば、なお、「自分が関わった講座」という愛着が湧き、周囲への勧誘につながることを期待できるかもしれない。

気軽に意見を述べられ、かつ、受講生のネットワークづくりにもつながりやすいよう、お茶菓子でも（持参か提供ありかは予算と会場都合次第）食べながら和やかに話ができる環境を用意することを併せて提案する。

危惧される点は、その最終回を設けるための時間を作ることが可能かどうかである。

はままつ女性カレッジアンケート結果

- Q2. あなたは女性カレッジの受講募集をどこで知りましたか。(複数回答)



- 他者からの紹介で受講募集を知った者は半数を占めた。
- 口コミ以外では、「広報はままつ」による広報効果が大きい。
- インターネットツールで募集を知った参加者はいない。

【女性カレッジ1,2期生の方にお伺いします】

- Q3-1女性カレッジで学んでよかったと思う点(複数回答)

男女共同参画についての知識を深められた	9	15.5%
浜松の市政のことがわかった	9	15.5%
政策提言の手法を学ぶことができた	4	6.9%
浜松市政に関わる機会につながった(審議会委員など)	4	6.9%
女性リーダーとして活躍する機会につながった	0	0.0%
仲間づくり・ネットワークづくりができた	0	0.0%
行政とのつながりができた	10	17.2%
視野が広がった	2	3.4%
学ぶことの楽しさを知った	12	20.7%
活動の機会につながった	4	6.9%
その他(4	6.9%
	58	99.9%

- Q7. 女性カレッジの参加者を増やすためのアイデアやカレッジの内容の改善点などお感じになっている点を教えてください。

- 現状の募集要項だけでは内容や受講のメリットが伝わらない。
- 私は知人が参加していたから内容をイメージすることができたけれど・・・。
- 他の受講生や政策提言のその後がわからないのが不満。政策提言後に、担当課の人と話す機会が欲しい。
- アンケートでは伝えにくい。修了生を集めて会議をしてくれたらいいのに。
- 広報が少ない。広報でも繰り返し掲載したほうがいい。自分は、あいホールからの二度目の案内メールをみて、参加を決めた。一回目は、「面白そう」で終わった。

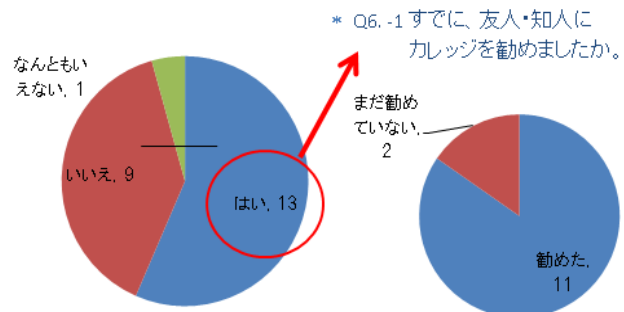
提案3. 広報はままつ掲載回数の増加、チラシ配布場所の追加

アンケートによると、参加者の約4割は広報またはチラシを見て参加している(Q2)。また、あとの4割は市職員または関連団体職員からの案内で参加に至っている。そこで、「広報はままつ」への掲載回数の増加やチラシ配布場所の追加を提案をする。新たなチラシ配布場所としては、子育て支援広場、イオン、駅周辺、バス・電車内などが考えられる。

- Q2.-2 あなたが、女性カレッジの特徴・魅力と感ずる点。(複数回答)

行政主催の講座なので安心できる	7	7.2%
費用がかからない	11	11.3%
託児つきである	8	8.2%
土曜日の開講である	7	7.2%
政策提言の手法を学べる	10	10.3%
浜松市政に対する関わりが持てる	8	8.2%
仲間づくり・ネットワークづくりができる	13	13.4%
普段の生活とは違った領域にふれることができる	12	12.4%
行政施策について学ぶことができる	9	9.3%
男女共同参画について学ぶことができる	12	12.4%
その他	0	0.0%
	97	99.9%

- Q6. 友人や知人に女性カレッジを勧めたいと思いますか？



- 半数以上の参加者にとって、他者に勧めたい事業とされている。
- 約半数の参加者が、すでに他者へ勧めている。

市または県から浜松市商工会議所等や企業へ送付される郵便・メールに添付することも併せて提案したい。この手段には、主催者、参加者自身だけでなく、企業にとっても社員の自己研鑽の機会を得られるというメリットがある。また、20代女性の多くは他世代に比して就業率は高く、結婚・出産の平均年齢は30歳前後にあり第一子出産を機に約6割の女性が退職することから²⁾ 企業を通して広報することは、現在参加率の低い20代女性や独身女性へのアピールとしても有用であると考えられる。

危惧される点は、チラシを増刷した場合のコストである。

3. 就活前のプチサロンについて

(1) 現状分析

- ①事業要旨 就活前の女子学生を対象として、働く女性社員との交流を通じ、女子学生に「働き続けること」の意義やキャリアを形成することの重要性などの意識づけの場を提供する。また、浜松市内の企業への就職を促すことにより、女子学生の卒業後の浜松定住化を図ることを目的として、就活前のプチサロンを開催する⁴⁾。
- ②対象 主に就職活動前の女子学生
- ③プログラム (第1回、第2回の内容は同じ)
 - 第一部 講演会 講師 小田木朝子氏 (株式会社 NOKIOO 取締役)
テーマ「就活前に知っておきたい！女子学生のための本当の就活準備セミナー」
 - 第二部 交流会 (浜松で活躍する女性社員とグループに分かれての交流会)
参加業種 金融・保険業、運輸業、製造業、医療福祉、地方公共団体 他
- ④その他 各回の開催日時、場所、参加者数は図2に示す。参加費用は無料。

	第1回 (平成27年度)	第2回 (平成28年度)
日時	2月16日(月)	12月15日(木)
場所	あいホール	アクトシティ コンgresセンター
参加者数 (申込者数) /定員数	9(12) /80人	24(28) /50人

図2 平成27、28年度 就活前のプチサロンの日時、開催場所、参加者数

- ⑤広報手段 広報はままつ、浜松市ホームページ、市内大学・専門学校の就職担当課へ訪問のうえチラシ配布依頼、浜松学生ボランティアネットワークのfacebookへの掲載依頼など

(2) 問題および課題の抽出

- ①問題 第1回から第2回にかけての改変で参加者を増やしたと思われるものの、定員に対して参加者が未だ半数に満たないこと。
- ②課題 参加者を集めるための、広報・開催スタイル等の見直し、提案をすること。

(3) 課題に対する調査分析

- ①第2回プチサロン当日の事業名検索結果 (図3)

検索エンジンは Google を使用して、「就活前のプチサロン」で検索を試みた。1,2 番目に浜松市役所ホームページがヒットするものの、2 番目のものはページが削除されていた (アクセスすると、「このページは見つかりませんでした」という画面につながった)。3 番目にはままつ就職ナビ JOB はま上、4 番目に浜松市役所ホームページ上で、それぞれ第2回プチサロン開催日程等が掲載されたサイトがヒットした。



図3 「就活前のプチサロン」Google 検索の結果 (最左) と検索上位順のサイト (左→右)

- ②第2回プチサロンの見学、当日参加者へのアンケート調査 (別紙)
- ③ 口コミによる事業宣伝の反応

当グループ員が、募集対象にあたる学生に口コミで事業を紹介したところ、「事業名の意味がわからないので興味がひかれない」との返答があった。またプチサロンについて、就労中の看護師数名に紹介をしたところ、これから結婚・出産を考えている者、育児休業中の者、結婚を期に退職をした者全てから、「看護師こそ、女性が働き続けられる仕事。継続就労のすすめや、そのための職場選びのポイントなど、新卒時や結婚前に知っておきたかった」「一般企業、公務員一般職就職希望者以外にも実施してほしい」との返答があった。

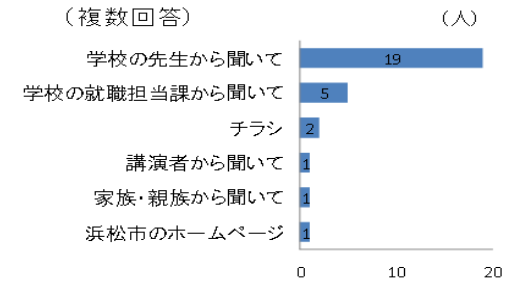
(4) 課題解決のための提案

提案1. インターネット検索時の情報の充実

アンケートによれば、学生は情報収集をする際、インターネットを活用することが示された (下記の Q7、Q12 の図参照)。就職情報に関しては、リクナビなどの就職情報サイトを頼りにすることも確認ができる。

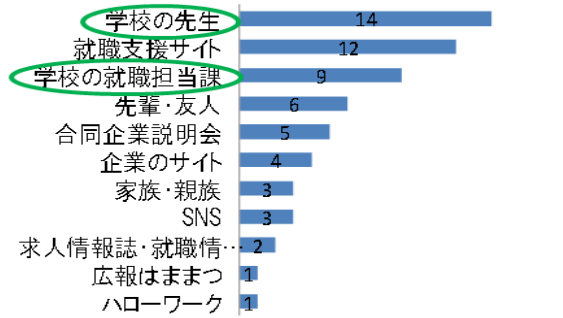
就活前のプチサロンアンケート結果

Q7. 今回のイベントを知ったきっかけ



・学校関係者からの勧めで参加した者が大部分を占めていた。

Q12. 普段、就職活動で参考になっている情報源を教えてください。(複数回答)(人)



・大半以上が、周囲の人間からの情報を頼りにしている。

「就活前のプチサロン」第1回、第2回開催時の広報手段は、広報はままつへの掲載、市内の大学・専門学校就職担当課へのチラシの配布、新聞社への掲載依頼のほか、インターネットを利用したものは、浜松市ホームページへの掲載、浜松学生ボランティアネットワークを通じた facebook など SNS での連絡であった。現状では、イベント名でインターネット検索した場合に得られる情報は乏しく、また、口コミで案内した学生から、「イベント名だけでは内容がわからず興味を持ってない」という発言があった。

以上を総合し、まず、多くの学生にイベント自体を知ってもらうために、まず、リクナビなどの就職情報サイトも利用してイベントを告知することを提案する。そして、就職情報サイト、SNS、口コミ、新聞などによりイベントを知って関心を持った学生が、「ネットで調べてみよう」となることを予測し、インターネットでイベント名を検索した際に得られる情報を充実させてはどうだろう。例を、図4に示す。開催レポートとして、講義内容を掲載するほか、可能であれば交流会に参加した企業名も記すことで、チラシに載せられない企業名を推測してもらうことにつながるのではないかと。例では参加学生らの感想も掲載している。

危惧される点は、就職情報サイトへの掲載費用発生と、イベントレポートの web ページ作成の手間が新たに発生することである。

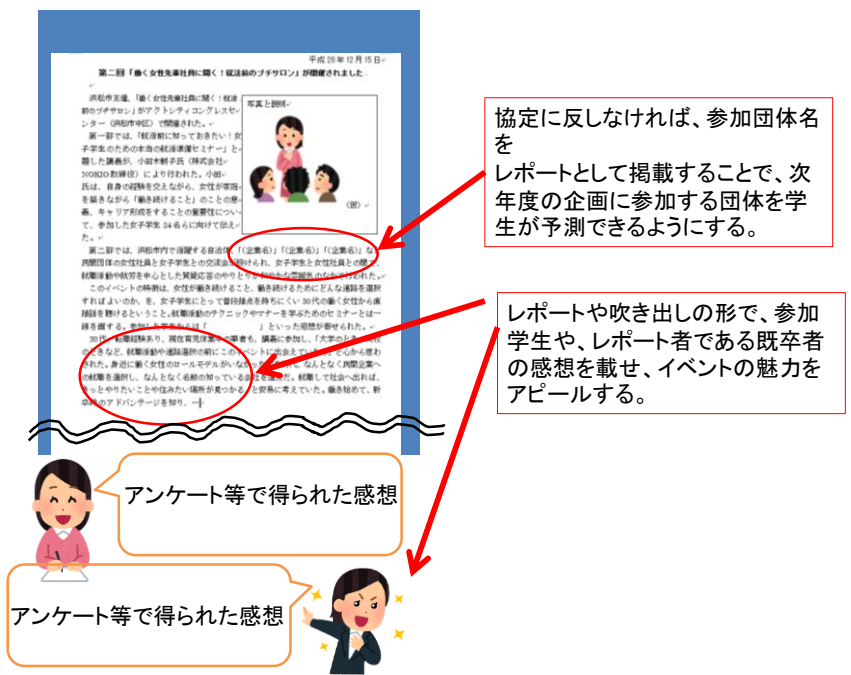


図 4 プチサロンレポート web ページの案

提案 2. 学校（大学、短大、専門学校、高校）への持ち込み企画として実施する

アンケートでは、今回の企画への参加のきっかけや、就職情報の拠り所として、学校の教員または就職担当課を挙げたものは全体の 9 割に及ぶ (Q7、Q12)。また、開催時期の希望は、参加者の所属により大きな偏りがあり傾向を把握するには至らなかったが、今年度については静岡大学情報学部で同日に学部での就職セミナーがあったとの情報が得られている。

就活前のプチサロン アンケート結果

Q5. イベント開催にあたり、学生が出席しやすい時期・時間帯を教えてください。

12月	11
1月	0
2月	1
3月	1
その他	6
夏休み	3
冬休み	1
春休み	0
無回答	1
	24

平日	8
土曜日	13
日曜日	1
無回答	2
	24

午前	6
午後	16
夜間	1
無回答	1
	24

以上のことから、学校との連携は学生の参加を促すうえで重要である。ならば、学校・学部・学科と連携し、学生の予定やニーズに合わせたイベントを、場合によっては学生を囲い込む形で開催してはどうだろうか。男女共同参画の学習の場として、また、浜松市民が浜松市で就業することを促す目的を考慮すると、現在対象としている四年制大学生、短期大学生、専門学校生に加えて、高等学校（進学率、就職率の如何を問わず）へ事業を拡大することも面白い試みではないだろうか。

危惧される点として、学校・学部の担当者に企画を持ち込み打ち合わせする手間が発生すること、賛同してくれる学校を探すこと、講師謝礼がかかること、複数の先輩社員に協力いただく交流会の開催が、毎回は困難であろうことが挙げられる。また学校で実施する場合、女子校でなければ、男子学生も一緒に参加することになるわけであるが、これをどのように考えるのかを検討しなければならない点である。

ただし、打ち合わせ等新たな手間・費用の発生する一方で、オープン企画で要される日程調整・場所取りの手間や場所代が省けるメリットを挙げたい。講師謝礼に関しては、ユニ・男女課の「こらぼ講座」と組み合わせることで予算を確保できないだろうか。また、全ての市内学校で開催するのではなく、まずは現状の開かれた形での開催に加え、数校でモデルケースとして実施すれば、費用の発生を最小限に抑えられる。交流会は、学校開催の場では設けず、興味を持った学生には、交流会のあるオープン企画へ足を運んでもらえばよいのではないか。学校での開催における男子学生の問題に関しては、女性活躍・男女共同参画は男女共に関わる問題であるため、対象を男女に広げてよいのではないか。自治体や民間団体における男性育児休業取得者も僅かながらいるため、こうしたケースの紹介や交流会への招聘を織り交ぜ、男女のワーク・ライフ・バランスを意識づけることも提案したい。

4. おわりに

先日、朝のテレビ番組で「一億総活躍」、「女性活躍」がテーマに取り上げられ、女性視聴者からは「働いていない私は活躍していないのか」、「女に家事、育児、介護のうえ、更に働いて活躍しろというのか」という否定的なコメントが多数寄せられていた。第2期はままつ女性カレッジでは「活躍」とは何か、を調査し、これまで主に女性が従事してきたアンペイドワークも活躍であることが再確認された。関連法や政府の指針を読むと、「女性活躍」の促進とは、あらゆる個人が望む場所で個性や能力を発揮できる社会の実現を目指すことであると捉えることができる。家庭の外に出て働くことを「活躍」と指しているのではない。この背景には、少子高齢化や国際化が急速に進む日本社会に対応するため、性別を問わず個々が社会の一員として、労働や政治の場で力を発揮していかざるをえない事情ももちろんある。しかしそれだけではなく、性別役割分業意識にとらわれず生き方を選択できる社会、男女ともにワーク・ライフ・バランスの良好な社会など、豊かな未来の実現を目指すものでもあると考える。自分達自身、これからの日本社会を担う子どもたちの未来がより豊かであるために、「一億総活躍」、「女性活躍」の目指す社会＝男女共同参画社会について関心を持ち、その実現を志すためにそれぞれ

の一步を踏み出すことは市民の責務であると思う。テレビ番組の視聴者の声に反映されているように「女性活躍」という言葉だけでは伝わりづらい政策が、一人でも多くの市民に伝わり、社会が変革する一步につながるよう、まずは今ある事業がより周知され参加者を多く集めることが課題であると、終わりに改めて実感した。そして、私達にとって、「はままつ女性カレッジ」に参加することがこの第一歩となったことを表明したい。

内閣府の世論調査（平成 28 年度）で、「働く目的」を尋ねているが、「お金を得るため（53.2%）」、「いきがいをみつけるため（19.9%）」、「社会の一員として務めを果たすため（14.4%）」、「自分の才能や能力を発揮するため（8.4%）」、という答が返ってきている。働くことは自己実現の大きな手段であるが、経済的に切迫し選択もままならない環境で働かざるを得ない人もいる。学生時代に「自分がどう生きたいか」を考え情報を得て動くことは、将来の選択肢を豊かにし、望んだ道に近づける可能性を高めると思う。そのためにも、プチサロンの情報が一人でも多くの学生に届いてほしい。

最後に、市民一人一人は勿論、事業に地域、民間団体も巻き込むことで、そして、事業を繰り返し行っていくことで、あらゆる人が自身の望む場所で個性や能力を発揮できる社会の実現に近付けていけたらよいと考える。

参考

- 1) 浜松市「浜松市男女共同参画計画 平成 20 年度－平成 29 年度」平成 20 年 3 月
 - 2) 内閣府男女共同参画局「女性の職業生活における活躍の推進に関する基本方針（本文）」
 - 3) 内閣府男女共同参画局ホームページ
 - 4) 浜松市ホームページ
 - 5) 浜松市平成 27 年度統計資料
- そのほか、平成 28 年度はままつ女性カレッジ講義資料

浜松を素敵に女性が集まるまちへ ～浜松U I Jターン事業推進のために～

報告書目次

1. はじめに
2. 現状分析（ヒアリング結果、インターネット等での情報収集）
3. アンケート・インタビュー結果
4. 課題の抽出（問題点の洗出し→課題の絞込み）
5. 提案
6. おわりに（感想、残された課題、反省等）

1. はじめに

当初「浜松を住みやすい街にするには」というテーマで開始したが、調査を進めるにつれ、“住みやすさ”だけではない“浜松が女性にとって魅力的な街”になるための提案を行いたいということで、テーマを「浜松を素敵に女性が集まるまちへ」とした。

今回のテーマの背景として、現在、日本においては、総人口の減少や労働者人口の減少、高齢者比率の増大、地方都市における若年層の大都市圏への人口流出等、人口について様々な問題がある。その対策として平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が施行された。これを基に浜松市も人口問題を解決するため、様々な事業展開をしている。その中で、今回は下記2事業を取り上げることとした。

* 「U I Jターン事業（産業部産業総務課）」

* 「婚活事業（こども家庭部次世代育成課）」

これらの事業はいずれも、今年度より本格的に推進されている事業で、今後の浜松市の人口問題に大きく関わる事業といえる。

2. 現状分析

「U I Jターン事業」

担当課：産業部 産業総務課

(1) ヒアリング結果

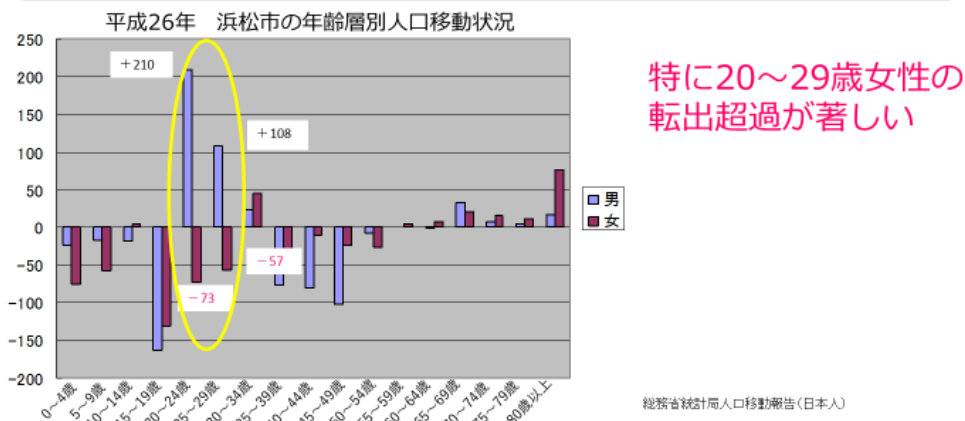
①事業の目的

- (ア) U I Jターンによる浜松市への転入者を増やす
- (イ) 特に転出が著しい女性の転入を増やす

②U I Jターン事業に取り組む背景

- (ア) 政令市の中で浜松市のみ、人口が5年連続転出超過であり、とりわけ女性の転出が顕著である
- (イ) 将来的にさらなる人口減少と少子高齢化が進むため、次代の地域の産業を担う人材を確保する必要がある

U I J ターン事業：目的と背景②



③ U I J ターン事業における現在の取り組み

- (ア) 「浜松市U I J ターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査」の実施
- (イ) 首都圏ビジネス情報センター関連事業
 - ・東京都に浜松市職員2名配置
 - ・首都圏大学との連携
 - ・浜松市内中小企業と首都圏の大学生等を対象とした就職マッチング事業
 - ・2016.7.6 浜松やらまいか就職面接会 (参加者30名)
 今年度は2017年3月に実施予定
- (ウ) 浜松就職応援サイトの運営
 - ・もともとあった求人情報サイトを浜松就職ナビ「JOBはま」としてリニューアル (2016年9月より)
 - ・企業情報は約1600社と非常に多い (前サイトからの引き継ぎが多いため)
 リニューアルして間もないため、求職者の登録増加が課題
- (エ) COC+関連事業

「婚活事業」

担当課：こども家庭部 次世代育成課

事業開始年度：平成28年度

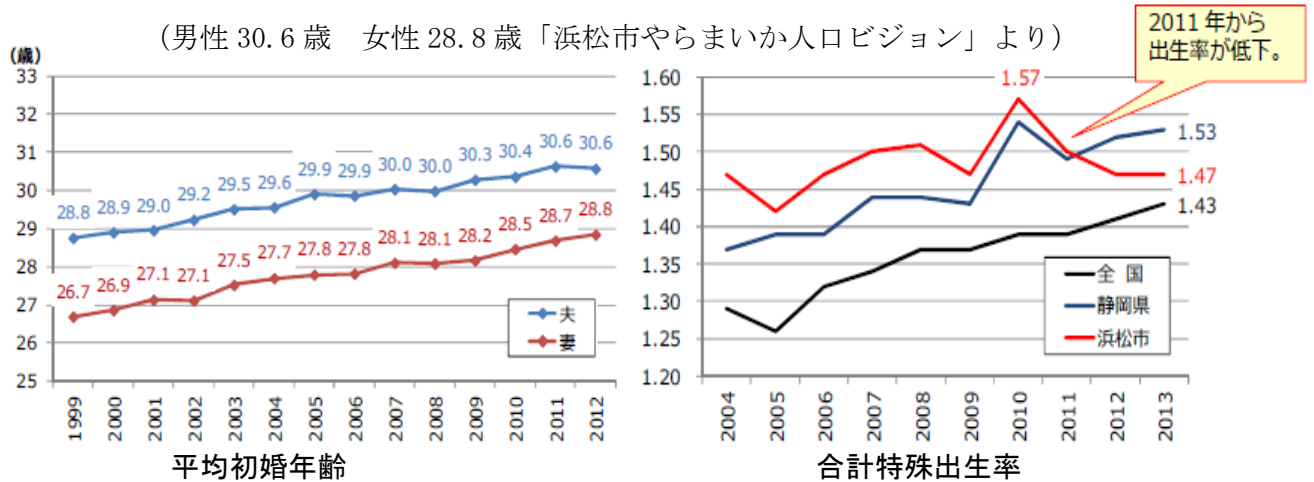
(1) ヒアリング結果

①事業の目的

- (ア) 少子高齢化に伴う人口減少問題に対応すること。
- (イ) 結婚したいと考えているが出会いの場がない人に、「出会いの場」を提供すること。
- (ウ) 考えているだけで行動していない人に、婚活を始めてもらうこと。

②婚活事業に取り組む背景

男女ともに晩婚化が進行し、出生率が低下していること。



③婚活事業を行政がやる意義は？

- (ア) 単なる出会いの場の提供ではなく、その先の結婚・出産を見据えて、「人口減少の抑制」を主目的としていること。
- (イ) 民間企業の行う婚活と差別化するために、様々な工夫をしている。(後述)

④婚活事業における現在の取り組み

- (ア) 婚活イベントの開催
 - ・ 選べる 5 コースで開催 (平成 28 年度)
 - ・ 各コース 2 回の参加が条件
 - ・ イベント中は、婚活アドバイザーが常駐
 - ・ 個人情報の管理を徹底 (お互いの交際意思を確認するまでは連絡先の交換不可)
 - ・ カップル成立後の追跡調査
- (イ) 婚活アドバイザー事業
 - ・ シルバー人材センターに登録されている高齢者を対象に養成講座を開催し、アドバイザーを育成。
- (ウ) 電話による婚活相談事業
 - ・ 毎週土曜日と第 2・第 4 水曜日に電話相談窓口を設置。
 - ・ 今年度相談件数：116 件 (本人：66 件 家族：50 件)
 - ※相談件数が少ないため、今年度で打ち切り予定。
- (エ) 高校生・一般向け出前講座
 - ・ 自分の将来や人生設計について考える出前講座を開催
 - 早めの行動を促し、30 歳までに結婚する男女を増やす目的。
 - ・ 婚活イベントのような単発の事業と同時進行で、継続的な意識啓発を行っていく



⑤ 婚活事業における課題と解決策

- (ア) 個人情報の保護を重視しすぎたことにより発展のチャンスを逃すことがある
- (イ) 婚活アドバイザーが高齢であり、婚活イベント参加者とジェネレーションギャップがあるため、仲介するにあたり問題がある
(メールでのやりとりなど)

→自分自身の連絡先を使用するのではなく、婚活イベント専用メールアドレスや専用 SNS を使用して連絡を取り合う

3. アンケート・インタビュー結果

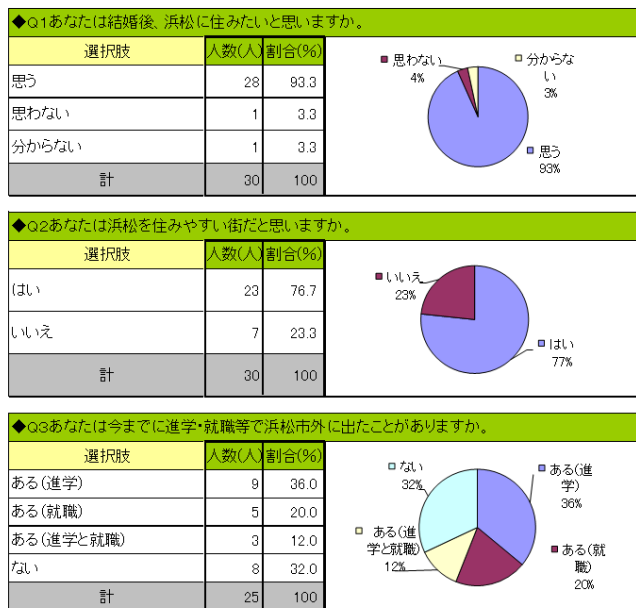
また、私たちは、事業の対象者である若年層の女性が、浜松市の住みやすさ・仕事に対しての価値観・女性のキャリアなどについてどのように考えているのか、実際の声を聞くために、アンケート及びインタビューを実施した。

(1) 婚活イベント参加者を対象としたアンケート

①概要

- ・日時：平成 28 年 12 月 6 日
- ・対象：婚活イベント参加者 30 名（男性 15 名 女性 15 名）

②結果

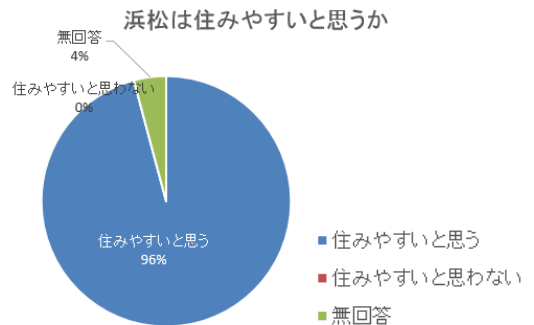
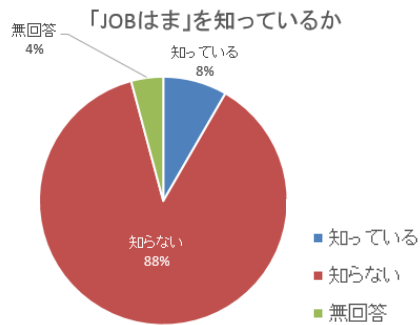
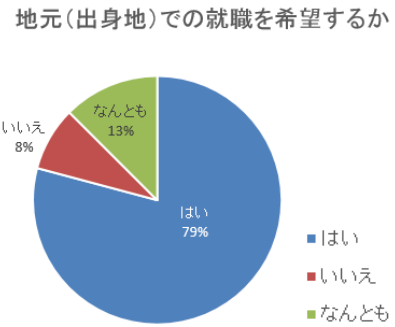
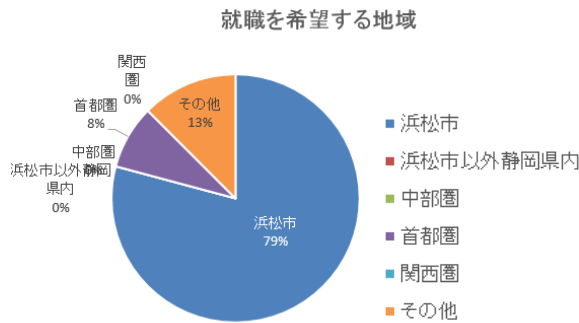


(2) 就活前のプチサロン参加者に対するアンケート

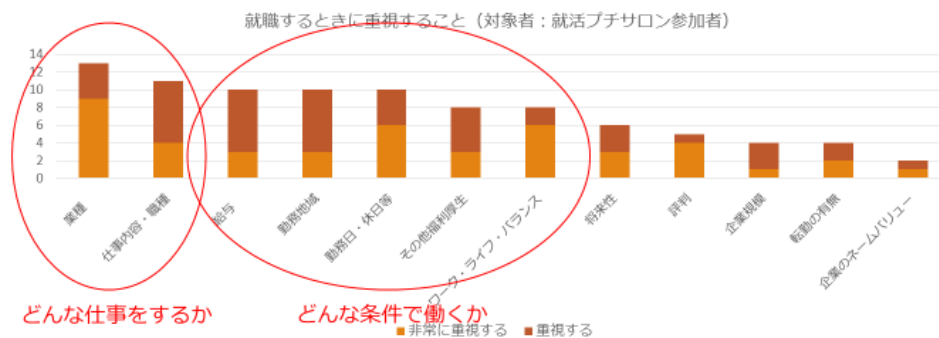
①概要

- ・日時：平成 28 年 12 月 15 日
- ・対象：就活前のプチサロン参加者 女子学生 24 名

②結果



実態調査：仕事を選ぶ際に重視すること



「どんな仕事をするか」と「どんな条件で働くか」を重視している

(3) インタビュー

概要

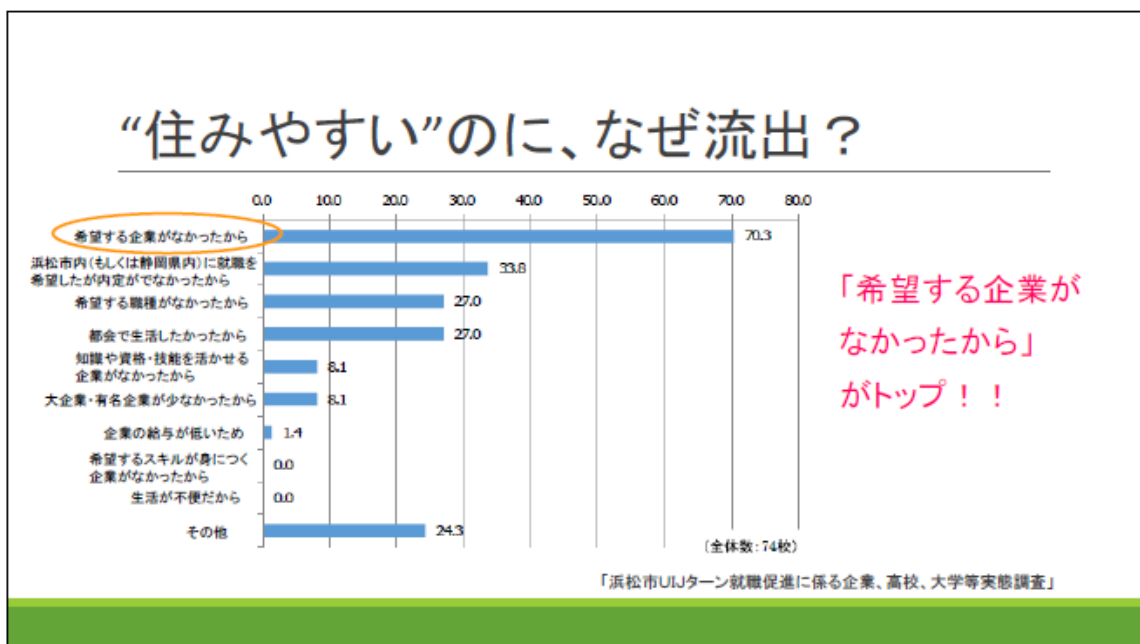
- ・対象者：U I J ターンを経験して働く女性 6名
- ・質問内容：
 - ①浜松に戻って就職したきっかけ、経緯
 - ②就職活動する中で企業を選ぶ際に重視したこと
 - ③就職活動中の企業情報の収集方法について（特に浜松市内の企業）
 - ④就職活動中に欲しかった情報
 - ⑤就職活動中に長期的なキャリアプランを考えていたか
 - ⑥浜松は住みやすいと思うか、またその理由

4. 課題の抽出

アンケート及びインタビューの結果より、浜松の住みやすさは高いレベルにあることが見えてきた。また、女性の仕事に対する考え方は男性と比較すると違った特徴があることも明らかとなった。

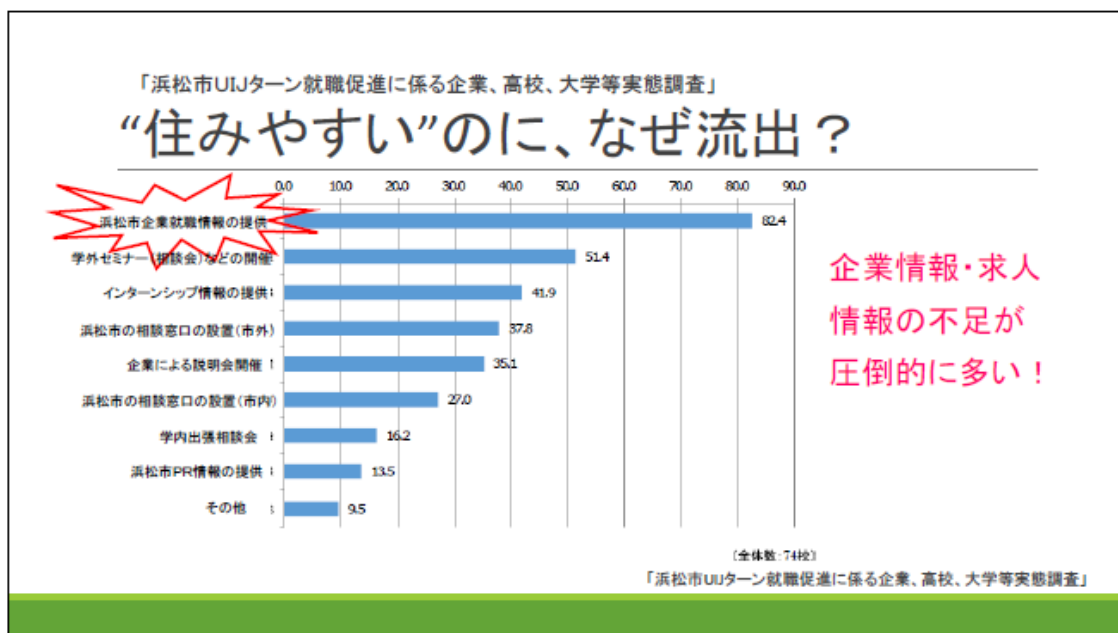
問題提起 1：なぜ、若年層は流出してしまうのか。

以下のグラフは、産業総務課が実施した調査の抜粋である。県外大学に対して「なぜ学生が浜松に就職しないか」を調査したところ、最も多かった回答が「希望する企業がなかったから」であった。



問題提起 2：それでは、本当に浜松には魅力ある企業がないのか。

同じ調査によると、「浜松の企業に就職してもらうためには何が必要か」について、80%以上もの大学が、「浜松市企業就職情報の提供」と回答した。



以上のことより、求職者に「企業・求人の情報が十分に届いていない」という問題点が明らかになった。また、インタビューより「UIJターン就職をする、と決めないと大企業・首都圏企業以外の企業情報が入ってこない」という意見があったことから、情報伝達は大きな課題であることがわかった。

課題：企業と求人の情報不足を解決するにはどうすればいいのか？

5. 提案

企業と求人の情報不足の解決の為に、大きく2点提案する。

企業と求人の情報不足を解決するには??

→浜松就職応援サイト「JOBはま」を活用

- ①女性にとって魅力的な情報の充実
- ②女性がより使いやすくするための工夫
- ③情報の伝達方法の工夫

(1) 女性にとって魅力的な情報の充実

女性にとって、仕事を選ぶうえでも「結婚」「出産」等が大きな影響を持つ。また、「親と同居していること」は、女性の就業している確率が高くなる一方、「低年齢（6歳未満）の子どもがいること」や「配偶者の労働時間が長いこと」は女性の就業している確率が低くなる（平成18年度国民生活白書より）。

インタビューした結果も、ほとんどの女性が長期的なライフプランを考慮して仕事を選んでいることがわかった。

インタビュー：キャリアプランについて

- ・仕事を続ける上で、結婚や出産の影響は大きいと考えていた。
- ・育休制度がしっかりしている職場かをチェックした。
- ・出身地でない地域で働いているので、両親の助けを借りることができず、子供ができた際の保育園のこと等も考えた。
- ・子育てしながらも管理職として働いている社員に会えたのであまり考えなかった。

→就職先を決める上で、少なからず長期的なキャリアプラン、特に結婚や出産について考えている！



また、就職をする際、育児制度や福利厚生をチェックする人も多く、また実際に職場で働いている女性のリアルな意見を聞きたいという声も多く挙がった。

以上のことから、JOBはまのコンテンツに「女性が就職する際に必要な情報を充実させる」ことを提案する。

提案

「JOBはま」に「ライフイベント」に関わるコンテンツを追加する

- ・産休・育休経験者へのインタビューを追加する
- ・浜松市の子育て支援への取り組みを紹介する

インタビューでも、産休・育休から復帰した方の体験談があればぜひ読みたい、との声があった

その際、できるだけ「普通」で「私にもできそう」と思える方の声を聞きたいとの要望があった

(2) 「女性がより使いやすくするための工夫」

仕事を選ぶうえで、女性が注目するポイント（企業側に求める条件）とはどのようなことなのか。

アンケート調査の結果、「どのような仕事をするか」「どんな条件ではたらくか」を重視していることがわかった。また、男性に比べて「仕事の安定性」や「給与」は重要度が低いという調査結果も出ている。そのため、一般的に大都市から地方の企業に転職した際にデメリットとなる企業規模や給与面で、女性は男性ほど気にしない可能性がある。

以上より、女性が働きやすい環境がある企業の情報が求職者の目に留まれば、浜松で就職してもらえる可能性が高まると考えられる。

提案

「JOBはま」を“女性”が使いやすくするための工夫

- ・土日休み、女性管理職あり、産休育休取得者がいる、
多様な勤務形態あり、などの条件で検索できるようにする
(現状は業種・職種・雇用形態・勤務地のみで絞込検索)
- ・女性の育成に力を入れている企業を特集する

(3) 「情報の伝達方法の工夫」

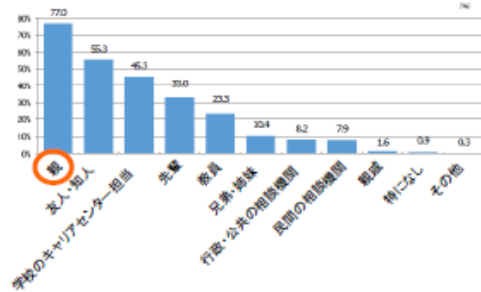
アンケート（就活前のプチサロン参加者）の結果、JOBはまの認知度については、知っている人が8%とかなり低い結果となった。

また、首都圏の学生にUターンの意思を調査したところ、約90%もの学生が、Uターンを視野に入れて就活を行っていることがわかった（「浜松市UIJターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査」より）。

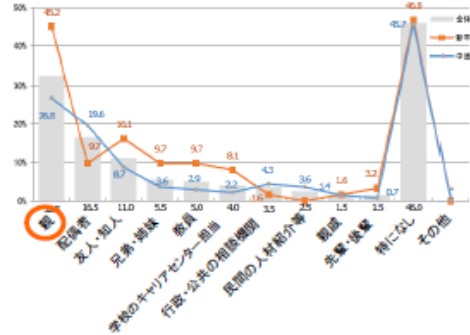
それでは、Uターン意思がある人に浜松の企業情報を伝えるには、どうしたらよいか。以下の表は、就活において誰に相談するかを示したグラフであり、「親」と回答した人が非常に多いということがわかる。

親が最大の相談相手

図表27 就職時の相談相手(複数回答)



図表37 採用区分別の就職・転職時に相談した相手(複数回答)



相談相手は「親」がトップ
→親からの情報提供をきっかけにUIターンを考えることがあるのでは？

「浜松市UIターン就職促進に係る企業、高校、大学等実態調査」

したがって、首都圏にいる学生に浜松の企業情報を伝えるためには、「浜松にいる親」を通して伝えることが有効であると考えられる。

提案

保護者世代(40代後半～60代前半)に「JOBはま」の
認知度をアップする

- ・広報はままつへの掲載
- ・JOBはまポスターを市役所や協働センターに掲示する
- ・保護者向け浜松市内企業説明会を実施する
- ・昔と現在の就活の違いを説明するコンテンツを掲載する

6. おわりに

今回、提案を考える中で、女性が何に注目し、どのような情報を望んでいるのかを知ることができた。また、提案には至らなかった「婚活事業」についても、現状分析を行うことによって、働くこと以外に浜松で暮らしていくために必要な視点のヒントとなった。また、「仕事」「結婚」「出産」という女性のライフスタイルから見ると「婚活事業」と「UIターン事業」という2事業が密接に関わるものであることに気付くことができ、今回の提案に繋げることができた。今後は、それぞれの事業を独立したものとして

進めるのではなく、「女性の一生」という視点において連携していくことが、浜松市の人口減少問題に歯止めをかける鍵となってくるのではないだろうか。

また、今回は女性の視点から「仕事」「家庭」「子育て」に関して提案を行ったが、近い将来、高齢化に伴う「仕事」「介護」のバランスも課題となり、「仕事の選び方」において男性も当事者となることが考えられる。女性が働きやすい職場づくりを進めることは、市民全員が働きやすい、すなわち「住みやすい」浜松市をつくることにつながるのではないだろうか。

☆各事業成功後のビジョン

- ・ 現在、若年層は男性超過、女性過疎。

U I J ターン事業の成功によって女性が増加すれば、男女のマッチングの可能性もアップ！？

- ・ 市内男性と市外女性の婚活イベントを開催することで、他の地域から就職以外で浜松に呼ぶことができるのではないか。浜松で就職する女性が増加！？

就職と結婚、どちらから始めても相乗効果を得られるのではないだろうか。

地域における女性の活躍推進 ～女性消防団員を増やすには～



1. はじめに

各方面で女性の活躍推進がうたわれているが、自治会における女性比率は低く、自治会長はほぼ男性であるなど、地域における女性の活躍は遅れている。さらには各地で災害の被害が増えている中、災害が起きた時に知識を持って活動できる人材も必要とされている背景があり、地域防災の強化も重要な課題となっている。そして、防災には男性だけでなく、女性の視点も不可欠であると考ええる。

ゆえに、地域防災と深いつながりのある消防団での女性の活躍が強く望まれている現状があり、そしてその活動は地域における女性の活躍推進につながっていくと思われる。

2. 現状把握

それでは、消防団とはどういうものなのか？名前（存在）だけは知っているという人がほとんどであり、詳しく知っている人は少ないのではないか。

まずは消防団について理解し、浜松市における消防団の現状を把握する。

(1) 消防団とは

総務省消防庁のHPによると、「消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の公務員」となっている。

(2) 浜松消防団の現状と女性消防団員数

浜松市の条例定数は3,265人となっているが、実員数は2,845人で、そのうち女性は20人である。（平成28年10月1日現在）

浜松市の女性消防団員の目標数は70人となっている。（浜松市全7区で各区10人ずつ）

(3) 浜松市民の意識調査（アンケート）

浜松市民の消防団に対する意識を調査するにあたり、浜松市消防局が今年度学園祭などで行ったアンケート結果を借りることができたので、その結果を検証する。

学園祭ということで若い世代の回答が多いが、これから団員として長く活躍できる年代の意見として、結果はとても重要であり参考になるのではないかと推測する（女性の割合も高いので検証には大変参考になる）。

調査対象者は、静岡医療専門大学校と常葉大学浜松キャンパスの学生及び学園祭来場者。

回答者は女性233人、男性117人の計350人。

アンケートから分かったこと

- 消防団について名前は知っているが、詳しい活動を知らない人が多い
- 地域に必要な組織だとは思っている
- 消火活動以外の活動をあまり知らない
- 活動が十分にできると思えないので、勧誘されても「はい」と言うことがなかなかできない人が多い。

『もし消防団へ勧誘されたら?』の質問の回答結果(女性のみ)

「いいえ」…42%、「わからない」…50%

団員になることは躊躇するが、
「消防団は必要ではない」という人は0でした!



(4) 浜松市の女性消防団員の現状 (アンケート)

次に、現在浜松市で活動している女性消防団員 20 名に、実際にどのような活動をし、消防団に対してどのような意識を持っているかを調査するためアンケートを実施した。団員 20 名のうち 12 名の方から回答があった。

①どんな女性が多いのか?

女性消防団員ってこんな人

20代、30代が多い



配偶者あり



実両親や義両親と同居



子どももいます!

会社員が多い
主婦・自営業
パート・アルバイト

* 浜松に住んで8年以上の方

* 入団時期は2014年以降

* 友人・知人のすすめで入団

* 地域に貢献したい

* 防災・消防にも女性の参画が必要だと思った

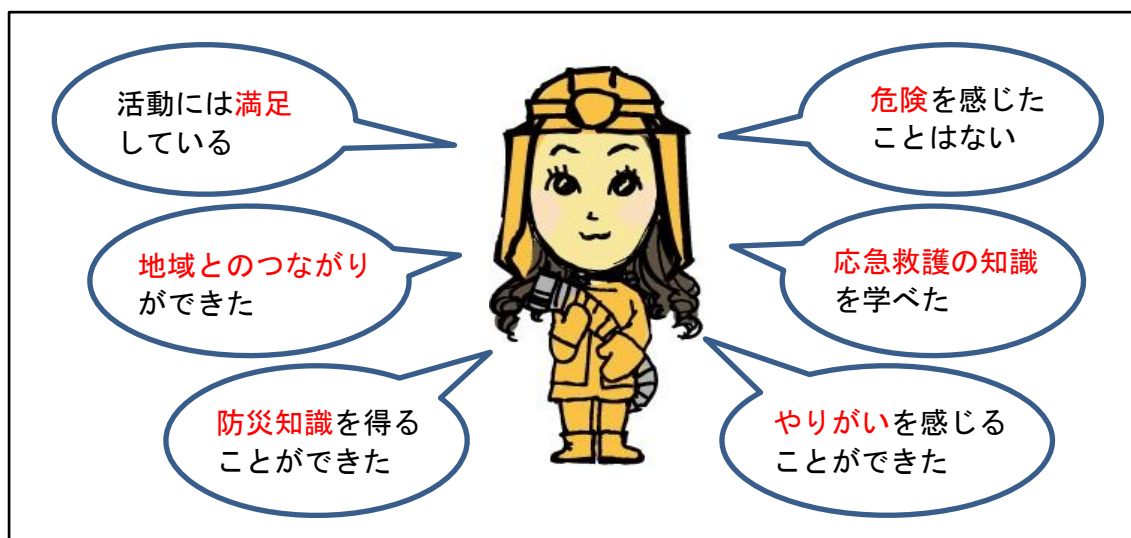
②主な活動内容

- ◎応急救護活動（訓練含む）
- 広報活動
 - ・火災予防活動
 - ・消火活動（訓練含む）

出動以外の活動 ⇒ 月に1～3回

活動時間 ⇒ 1～3時間未満

③女性消防団員に聞いた活動について良かったと感じたこと



④女性消防団員の数について

「もっと地域の人に活動を知ってもらいたい」「女性といっても学生や子育て中のママやキャリアウーマン、子育ての終わったママなど幅広い年代が消防団員として活動することが理想」「たくさんの人に知ってもらい、たくさんの人に参加してもらえたいと思う」など、現在活動中の女性消防団員のみなさんが、もっと女性消防団員が増えることを望んでいることが調査で分かった。

(5) 浜松市が定めている女性消防団の活動内容

消防団は活動の根拠が市町村などの自治体の条例であるため、自治体によって活動内容が異なる。そこで、浜松市消防局が定めている浜松市の女性消防団の活動について確認した。すると浜松市では、活動内容を選べることが分かった。



消火活動
(男性団員と一緒に活動)

選べる！！

応急救護活動
(消火活動はしない)



3. 課題の抽出

(1) 問題点

- ①ほとんどの市民が「消防団」は必要な組織だと思っているが、活動内容など知らないことが多いため、なりたいと思う人が極端に少ない。自分にできると思っている人が少ない。
- ②活動するには、家族や地域の協力が不可欠。

(2) 課題

- ①どうすれば市民に広く活動を知ってもらえるか。
浜松市の消防団活動内容を広く知ってもらう良い方法は・・・。
- ②どうすればサポートする側にも広く活動を知ってもらい、協力してもらえるか。



どちらにしても浜松市の消防団の活動を広く知ってもらい、正しく理解してもらう必要がある。

4. 絞り込んだ課題に関する現状のまとめ、調査分析

浜松市消防局の職員が、学園祭などのイベントで消防団のブースを設け、浜松市消防団の周知活動と女性消防団員の募集を行っている（アンケートも実施）。

徐々に女性の数も増えてはいるが、まだまだ足りない状況であり、周知方法も学校や一部の施設など部分的な場所に限られている。もっと広く（浜松市全体に）『浜松市消防団』を知ってもらい、活動内容や勤務体制を誰でもすぐ「知っている」と言える程の『消防団』を目指す必要がある。

5. 課題解決のための提案

課題を解決するための案として、まずは市民に広く活動を知ってもらい、自分にできる範囲で活動できることを分かってもらうことと、同時に地域の協力を得て地域に応援され、団員も地域の協力者も町に貢献していると感じてもらえる案を考える。

具体的に4つの募集案を提案する。

(1) 直虎ちゃんブームに乗った募集

今年乗りに乗っている「直虎ちゃんブーム」に乗り、大々的に女性消防団員募集を広報する。まず、直虎ちゃんが載っている女性消防団員募集チラシを作成し、直虎ちゃんが出演するイベント時には必ずPRしてもらう。その際には消防団の活動も広報する。また、直虎ちゃん関連の施設や協働センターなどにチラシを配架してもらう。

浜松市の消防団は活動を「選べる」ことを強調したチラシを作成。

チラシ作成



直虎ちゃんも

女性消防団員の

活躍を応援しています！！

出世法師
直虎ちゃん



©浜松市

(2) 女性消防団の愛称募集

(3) 浜松市消防団のイメージキャラクター募集

直虎ちゃんは、今年の大河ドラマで大ブームであるが、その後を考えると、この先もずっと市民に親しまれ『消防団』になるにはどうしたらいいか。

そこで、活躍する女性消防団員に愛称があったら親しみやすいのではないかと。そして、同時に直虎ちゃんから引き継ぐ形で、新しい消防団だけのキャラクターがいたら末永く愛される消防団になるのではないかと考えた。

また、その愛称やキャラクターを公募することにより市民が消防団の活動を知る良いきっかけになると思われる。

例) 『浜消女子』・・・浜松市消防局の女性消防吏員（常勤勤務）の愛称

『ドリームフラッグス 119』・・・浜松市消防局音楽隊のカラーガード隊の愛称
(こちらも公募で決まった)

例) 浜松市消防局のキャラクター・静岡県警察の県西部で活動しているキャラクター
など

チラシ作成

あなたの町で活躍する消防団を応援しよう!!

女性消防団員の愛称&
浜松市消防団のイメージキャラクター
大募集

I 愛称部門
浜松市の女性消防団員は「浜洲女子」
浜松市消防音楽隊のカラーガード隊は
「ドリームフラッグス119」
と名前があります。
あなたの町で活躍する女性消防団員の
愛称を募集します。
浜松で活躍する女性を応援しましょう!

我々も応援しているのじゃ!

家康くん 直虎ちゃん

II キャラクター部門
浜松市消防団には、消防の広報を担う
イメージキャラクターがいます。
その名もブルファイターのブルータと
ブルーナ!
消防のイベントでは大活躍中です。
地域での活動が多い消防団にも
かつたないヒーロー、かたないキャラクター
がいれば、とても嬉しいですよね♪
みなさんのアイデアで新たなヒーローの
誕生です!!

ブルファイター

【申込み方法・問合せ先】
申込み方法
問合せ先
浜松市消防団消防総務課
〒430-0905 浜松市中区下池田19-1 TEL: 053-475-7524 FAX: 053-475-7529



ブルファイター
(ブルータ)

ブルファイター女の子
(ブルーナ)



アーマードポリス
(レオ&レナ)

(4) 浜松市消防団のサポーター企業・店舗・事業所など募集

会社員やパートで働く女性が多い現在、消防団として活動するには周りの理解が必要不可欠である。

そこで、地元の企業や店舗に『消防団』を知ってもらい、協力してもらうために「消防団応援サポーター」を募集する。サポーター店として市民に認知されれば、社会貢献している企業や店舗ということで、イメージアップにも繋がるであろう。

また、協力店などには、消防団員へのちょっとした『特典』を設けてもらい、団員が消防団で良かったと思えるように協力してもらう。

チラシ作成

浜松市消防局
あなたの町を守る消防団を応援!
浜松市消防団サポーター
募集します!

消防団は、本業を別に持つ一般の市民で、
その地域に暮らす住民により構成されています。
強い使命感と郷土愛、そして助け合いの
ボランティア精神によって活動しています。
そんな消防団員を応援しませんか?

*町の消防団をサポート
*消防団員を応援
*防火・防災イベントに協力
*消防団サポーター企業・店舗として市民にPR

家康くん 直虎ちゃん

【申込み方法・問合せ先】
申込み方法
問合せ先
浜松市消防団消防総務課
〒430-0905 浜松市中区下池田19-1 TEL: 053-475-7524 FAX: 053-475-7529

団員証提示などで割引やおまけ

【メリット】

- * イメージアップ
- * 周辺の防火パトロールを強化
- * 消防イベントで企業や店を紹介
など

消防フェスティバルのような消防イベントで表彰式を行う。そこでさらに広報もでき、同時に募集案内もする。

また、サポーターである協力店から賞品を提供してもらえれば、より多くの市民が興味を引かれるであろう。

協力店は地域の活動に協力していることを浜松市消防局に認定してもらい、市民に分かりやすいようにマークを掲げる。マークのある企業や店舗や事業所が増えたら、どんなに素晴らしい事であろう。

6. おわりに

その後としては、イメージキャラクターは直虎ちゃんに代わり、様々なイベントや地域の活動で消防団員と共に活動してもらおう。もちろん活動報告も行い、広報誌なども発行し、PR していく。イメージキャラクターは広報活動で大いに活躍してくれるであろう。

認知してもらうまでには長い時間がかかるかもしれないが、ゆっくりでも末永く市民に親しまれ、無くてはならない、私もやってみたいと思われる『消防団』になってもらいたいと思う。

東日本大震災では、多くの消防団員が活躍したと聞く。

警報が鳴り響く中、地域情報を把握している顔見知りの消防団員の存在は、市民にとってどんなに心強かったことであろう。特に女性にとっては、防災知識を持った同じ女性の細やかな対応が、女性たちの心の拠り所となったのではないかと思う。

消防団の活動は、身体的にも精神的にも大変きつい活動である。それでも、だからこそ、多くの市民が必要としている、そんな頼れるやりがいのある『消防団』に、これからたくさん女性の女性が参画し、地域で活躍してくれることを願っている。



ありがとうございました。

●カリキュラム一覧

日程	内容	講師（敬称略）
第1回 8月20日	開講式 オリエンテーション 「男女共同参画って何だろう」【講義】 難しい言葉だけれども、あなたにとっても、社会にとっても、 とっても大切。男女共同参画について学びます。	課職員 静岡県立大学 国際関係学部 教授 犬塚協太
第2回 9月10日	「女性の政策決定過程への参画」【講義】	静岡大学 人文社会学部 教授 日詰一幸
第3回 9月24日	「プレゼンテーション能力を高める」【講義】	フリーアナウンサー 原田裕見子
第4回～ 第8回 10月15日 29日 11月19日 12月3日 17日	グループワーク 自分が研究したいテーマを候補の中から選び、グループを決 定します。その後、グループに分かれテーマ関連課職員やア ドバイザーの意見を聴きながら、テーマの解決方法を見つけ 出し、提案書及び発表会の準備等を行います。	アドバイザー： 静岡大学 情報学部 教授 笹原恵
第9回 1月28日	提案発表(事前リハーサル) グループワーク	アドバイザー
第10回 2月18日	提案発表 修了式	アドバイザー

●講義内容

日時	第1回 平成28年8月20日(土) 13:30~16:00 ① 開校式・オリエンテーション 13:30~13:45 ② 講義 13:45~16:00
受講者数	9名
講師	犬塚協太さん(静岡県立大学国際関係学部 教授)
内容	① 開講式・オリエンテーション ・今後のカレッジの内容について説明 ② 講義「男女共同参画って何だろう？」 ・男女共同参画社会って何？ ・性別役割分業社会とは、何が問題なのか ・男女共同参画社会の実現はなぜ緊急課題なのか ・男女共同参画を妨げるもの ・男女共同参画社会をめざして



【受講者の声】

- ・「男女共同参画」という言葉について、よく理解できました。家庭の理解があっても、会社の理解がなくてはいけないし、会社を変えるには、社会全体が変わらないといけない…大きな問題だと思いました。
- ・今まで漠然と疑問を持ったり、憤りを感じていたりしたところをとても分かりやすく説明していただき、自分の中で考えがまとまってきました。男性からこのような話を聞くのは初めてで、とても新鮮で勇気づけられました。
- ・自分自身の「身体化したジェンダー」に気付くきっかけとなりました。
- ・男女共同参画の推進のためには、女性だけでなく、男女が共に意識を変える必要があると感じました。

日時	第2回 平成28年9月10日(土) 13:30~16:00 講義 13:35~16:00
受講者数	8名(欠席者1名)
講師	日詰 一幸さん(静岡大学人文社会学部法学科教授)
内容	講義「女性の政策決定過程への参画～なぜ女性の参画が必要なの?～」 ・女性と政治参加の歴史 ・男女平等と日本の現状 ・政策立案と女性の視点 ・政策の基礎知識、政策過程 ・「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」に向けて大切なこと



【受講者の声】

- ・ 様々な他都市の事例を聞いて、おもしろい取り組みをしている自治体がたくさんあることを知りました。小さな気付きが誰かの役に立つ事業につながれば、誰もが活躍できる社会になっていくと思いました。
- ・ 女性の政治参加の歴史で、浜松県榛原郡横岡村等(現島田市)が最初の投票場所と聞いて驚きました。参画を躊躇することなく、積極的になるメンタリティをまず身につけるよう努力したいと思います。
- ・ 政策、方針決定過程の場に主体的に参加することが重要だと感じました。地域生活者の目線で、気づきを見つけることも大切だと思いました。
- ・ 日本の政治では、政策決定の場に女性が少ないことが当たり前のようになっていましたが、早急に改善されるべき課題であると思いました。
- ・ 一市民として、一女性としてどのように政策決定に関わっていけばいいのかよく分かりました。街を歩くとき、いろいろなことに目を向けながら歩いてみます。

日時	第3回 平成28年 9月24日(土) 13:30~16:00 講義 13:35~16:00
受講者数	10名(欠席者1名)
講師	原田 裕見子さん(フリーアナウンサー)
内容	講義「プレゼンテーション能力を高める」 ・プレゼンテーション、プレゼンターとは ・「話す」と「伝える」の違い ・伝わる話し方をするために(発音・滑舌トレーニング、声・視線・姿勢) ・プレゼンテーションの流れ、内容、言葉



【受講者の声】

- ・普段、口をしっかりと動かし手話していたのだと気づきました。ハキハキ話すことで気分も明るくなることを実感できました。
- ・プレゼンテーションでは相手に伝わるように堂々と話すことが大切なのだとわかりました。どんなことに気をつけて話したり伝えたりすることが大事なのわかりました。
- ・プレゼンテーションとはどういうものか理解できました。話す練習はもっとしていかなければいけないと思いました。場数をどんどん増やしていきたいです。仕事ではもちろん、生活や地域活動でも大変役に立つ内容でした。
- ・緊張しましたが有意義な時間になりました。“シンプルに自分の言葉で伝える”ことを心掛けます。人前で話すとき、原稿を読んでしまうことが多いので、自分の言葉で伝える練習をしたいです。
- ・仕事上、プライベートでも人前で話す機会は多いので、人に「伝える」という気持ちを忘れずに、役立てたいと思います。

第3期

はままつ女性カレッジ受講者募集♪

～私をエンパワーメント!～

あなたも、これからのまちづくりに参画してみませんか？

8月20日（土）スタート！

全10回 無料 託児付

申込受付 7月15日（金）～29日（金）



仕事や子育て、家事などに手一杯で何かをする余裕もない。だけど、自分の経験や考えで社会に少しでも貢献できたら…。そんな思いがあなたの中にありませんか？

はままつ女性カレッジで、社会の問題・課題を勉強しながら、身の回りの問題・課題を研究し、解決の糸口となる提案をしてみませんか。

対象

浜松市在住のおおむね20～40歳代女性
地域や職場のリーダー、地方公共団体の審議会・協議会等の委員として活躍したいと考えている方。
先着16名

会場

浜松市役所 21・22 会議室
（車でお越しの場合は、市役所の駐車場をご利用ください）

受講料

無料

託児

原則1歳以上就学前まで
（要予約、**7月29日（金）締切**）

期間

平成28年8月～平成29年2月（全10回）
各回とも土曜日、13時30分～16時
（詳細は裏面参照）

申込方法

申込書に必要事項を記入し、直接、郵送、FAX、メールにて、申込先へ。
申込書は浜松市ホームページからもダウンロードできます。

申込受付

7月15日（金）～**7月29日（金）必着**

申込・問い合わせ

浜松市ユニバーサル社会・男女共同参画推進課
〒430-8652 浜松市中区元城町103-2
TEL053-457-2561 FAX 053-457-2750
E-mail jose@city.hamamatsu.shizuoka.jp

はままつ女性カレッジ

検索

詳しい日程・内容は裏面へ→